

伝統こけしのふるさと (県別こけし産地紹介)

柴田長吉郎

2. 福島県

元来、伝統こけしは東北六県で生まれ育ち、他の府県には見られない郷土玩具であったが、現在ではこけし産地で木地屋に弟子入りして、その技法を習得した工人や木地屋の子弟が、競合する相手の少ない温泉地などに移住して、土産物として伝統こけしを作っている。発生地とは必ずしも一致しないものがある。

福島県のこけしは、何と言っても土湯系が主流で、土湯系こけしの生まれた土湯温泉が最も工人も多く、主要な産地となっている。

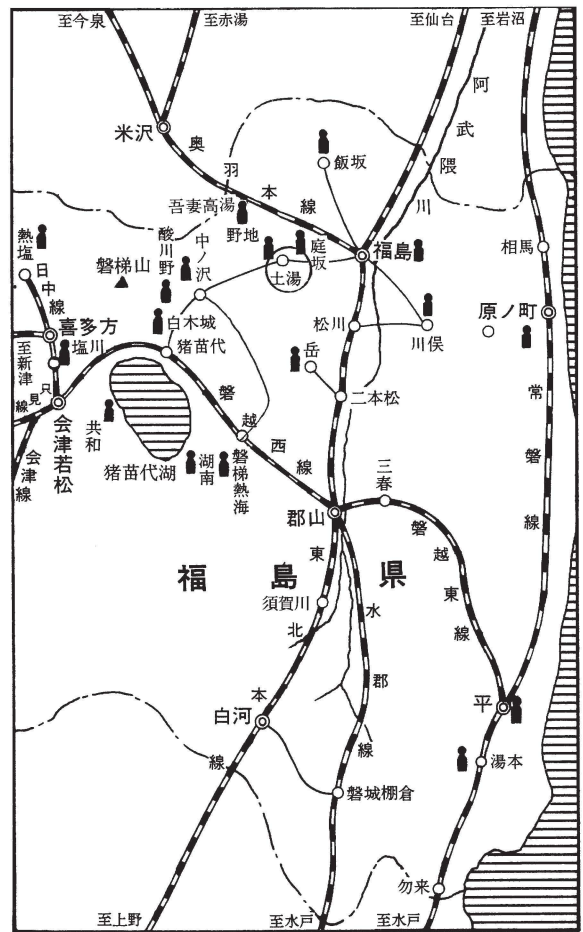
2.1 福島市

主要な産地は土湯温泉で、最も多くの工人が集っていて土湯系発祥の地である。

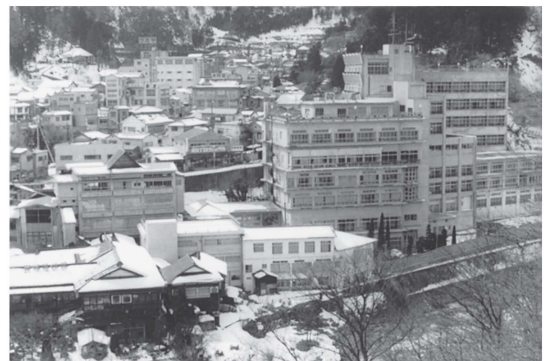
土湯温泉 福島駅前よりバスで約40分の所にあり、荒川の渓谷に沿った土地に多くの旅館とこけし工人の店などがある。土湯系と呼ばれる独特の形と模様を持ったこけしが古くから作られており、現在も約15名のこけし工人が伝統こけし(土湯系)を作り、自家でも展示して販売している。町は川沿いと、川向うに発達し、山手の方にも川に平行した道が通じている。(上ノ町)会津方面への街道の途中に出来た温泉町で、更に川沿いに約1kmほどのぼると、閑静な川上温泉がある。こけし工人は居ないが、秘湯と呼ばれる温泉郷で、吾妻小富士や周辺の間々への登山基地としても知られている。

毎年4月初旬にこけしまつりが行われ、川にかかった橋上付近の広場で、伝統こけしの製作実演と6寸こけしの販売、古品の展示などがあるが、こけしを買うと箱の中に当り券が入っており、この券により抽せんを抽くと、大寸のこけしが当るので呼物となっている。また、少し登った高台に聖徳太子をまつった太子堂と、その下方に寺院(興福寺)があり、こけしまつりには、こけしの奉納や供養祭が行われている。

土湯の近くには、想いの滝、男沼、女沼などの景勝地や、水芭蕉の仁田沼などがあり一見に値する。



福島県こけし産地



土湯温泉

土湯温泉から奥へ山道を辿ると、標高1,200米の土湯峠に達するが、その少し手前に野地温泉がある。もとはこけし工人が住んでいたが、現在は作られていない。また、少し下った赤湯温泉では、こけし工人が、旅館を経営しながら、こけしも作っている。土湯峠からは、磐梯吾妻スカイラインが、吾妻連峰を両側に眺めつつ福島郊外の高湯温泉まで通じている。この山岳道路は昭和34年に開通した有料の山岳観光道路で、福島駅前から吾妻・磐梯高原定期観光バスがいろいろ